

南三陸町

リアスの人とまちと未来が満ちる——— 南三陸町 町勢要覧 2007

神行堂山

童子山

さんさん館

ひころの里

松笠屋敷

正鵠の森

荒島

モアイ像

志津川湾

田束山

行者の道

惣内山

サンオーレそではま

南三陸金華山
国定公園

歌津大橋

伊里前湾

葦の浜漁港

平成の森

歌津魚竜

泊崎半島

唐船番所

椿島

保呂羽山

神割崎

南三陸金華山国定公園の中心に位置し、

豊穡の海と日本の原風景である里山と、

いにしえからの伝統文化を今に残す私たちの町。

人情に厚い人がいる。活気をつくるまちの営みがある。

そして、限りない豊かさと希望に満ちた未来が広がっている。

リアスの人とまちと未来が満ちる

南三陸町は今、融合が生む鼓動を新しい力に、

このまちに生きる誇りと喜びを抱きながら、

人と自然が織り成すリアスの幸あふれる町として、

おおらかに、そしてエネルギーに、

力強く確かな歩みを刻みはじめています。



C O N T E N T S

02 A L I V E 南三陸―自然を生かし、交流を生む「観光の町」
06 A L I V E 南三陸―自然と共に生きる「海業と防災の町」
10 A L I V E 南三陸―人と地域と未来をつなぐ「交流の町」

14 360° T O W N S C O P E

16 リアス V O I C E 私たちの町・南三陸を語る

20 南三陸彩時記 自然のリズムと町民の営み

22 南三陸ブランド A t o z 人と自然が織り成すいいモノ語り

26 まちの歴史遺産 未来に伝えたい町の誇り

30 『自然・ひと・なりわいが紡ぐ安らぎと賑わいのあるまち』をめざして

〈総合計画概要と施策〉

T O W N V i s i o n ① 安全で安心なまちづくり

T O W N V i s i o n ② 集いと賑わいのあるまちづくり

T O W N V i s i o n ③ みんなで支えあう健康のまちづくり

T O W N V i s i o n ④ 環境と調和したまちづくり

T O W N V i s i o n ⑤ 知性と豊かな心を育むまちづくり

T O W N V i s i o n ⑥ 参加と協働が活発なまちづくり

T O W N V i s i o n ⑦ 戦略的な地域経営の展開

36 町長メッセージ

※表紙にある地名は町の形を文字で表現したものであり、実際の位置を表わしたものではありません。

海がある豊かさ

深く入りこんだ湾が造る、リアスの海岸美。

湾に浮かぶ鮮やかな浮き玉と大小の小島。

深い緑をたたえる森と、花咲き誇る山々の連なり。

シロウオが泳ぎ、サケが遡上する河川。

そして山間に点在する里山の農村風景。

ALIVE南三陸———自然を生かし、交流を生む「観光の町」

山がある懐深さ

南三陸町は、海と川と森と山の趣きある風景が続く町です。

訪れる人が「日本の原風景」と感動し、

国の天然記念物であるイヌワシやゲンジボタルをはじめ、

幾多の生命を育んできた、豊かさを約束された地として、

豊穡の幸を享受できるまちづくりを進めています。



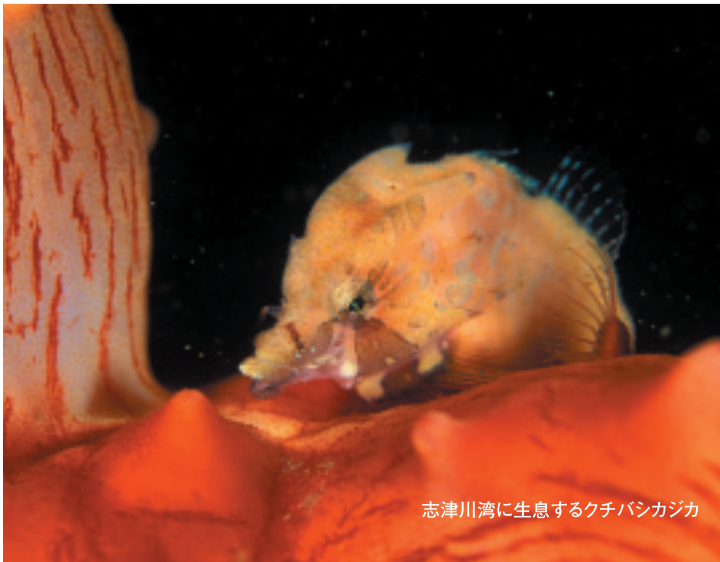
椿島(左)と竹島(右)



荒島とサンオーレそではま



南三陸温泉



志津川湾に生息するクチバンカジカ

万物の生命が循環する町

山と海に囲まれ、自然に恵まれた南三陸町は、理想的な生態系を有する環境にあります。標高3百〜5百mの峰々を源とする幾筋もの清流は、田園地帯を潤しながら、町の養殖漁業を支える湾へと注がれます。懐の深い湾は、流入した生活排水の有効成分を餌にしてカキやホタテ・ホヤの生命を育み、その力キやホタテは海水を浄化する役目を果たしています。南三陸の海の豊かさは、山・川・海と町民の営みが調和し、町全体がひとつの生態系として理想的に循環していることの証明です。そして「人も自然の一部」であることを実証しています。

椿島や竹島など湾内に点在する島々には、タブノキ原生林やモチノキなど暖地性植物北限種が群生し、イワウチワやヒメコマツなども自生することから、温帯から亜高山帯にかけての植物分布の見本とも言われています。町内では200種を越える鳥が確認されており、日本固有のセグロセキレイやイソヒヨドリ、カワセミなどの野鳥を一年中、目にすることができます。また絶滅危惧種としてレッドデータブックにも記載されている国の天然記念物、イヌワシ

今なお残る日本の原風景

町の北西にそびえる田束山をはじめ、神行堂山、貞任山、童子山、保呂羽山など、

「日本の原風景」として訪れる人の郷愁を誘います。里山を縫うように流れる川のせせらぎやかやぶき屋根、水車小屋など、いにしへの趣きを今に伝える風景が町の豊かさを象徴的に物語っています。

地域を活かし、人を生かす

豊かな自然に恵まれた南三陸町は、グリーンツーリズムやブルーツーリズムが盛んな体験観光の町として近年、ますます注目を集めています。廃校になった小学校の木造校舎を改装して作られた「校舎の宿：さん

さん館」では、地元の町民が先生となり、

農林業体験や漁獲体験など一年を通して100種にものぼる体験メニューを実施。地域全体で体験者を受け入れる体験学習の拠点として、また新たな都市・農漁村交流の場としても大きな話題を集めています。そうした取り組みの中から、農家で寝食を共にする民泊や例年行事として参加する学校が年々増えるなど、新しい交流の形も生まれてきています。こうした動きは、「南三陸町自然環境活用センター」や「宮城県志津川自然の家」をはじめ、町内のホテル・民宿などの宿泊施設においても、多種多様

な形で行われています。

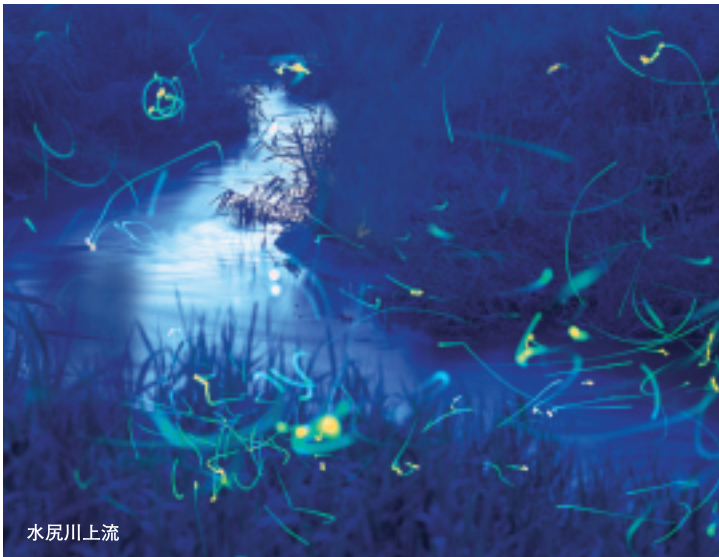
町の美しく豊かな自然を舞台に、先人から伝えられた営みや風習、伝統の技などの地域資源を活かし、訪れた人と共に喜びを分かち合うことができる交流体験の場は、年々広がりを見せ、地元住民にも新しい自信や喜び、活気をもたらし、町の活性化と産業振興の大きな原動力にもなっています。これまでの夏季型観光地から周年型の滞在・体験型観光地へと変化しつつある中で、南三陸町は、県内有数の体験観光拠点としてのまちづくり・人づくりを進めています。

ALIVE南三陸

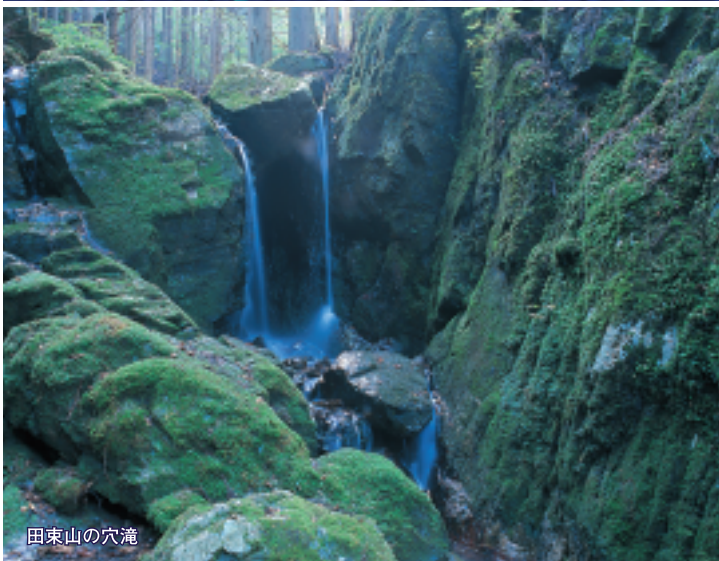
Minamisanriku Town has attractive vistas of sea, rivers, forests, and mountains. Visitors are touched by its “Very Japanese landscape”. This is the home of golden eagles, which are a national natural treasure, lighting bugs, and others. The town has recently gained attention as a town of green and blue tourism because of its affluent nature. We are proceeding to improve the town and develop a community by preserving its rich environment and producing exchanges between people.



さんさん館



水尻川上流



田束山の穴滝



入谷地区の水田

自然を守り継ぐ

親潮と黒潮が交わる天然の良港を抱え、
豊穣の恵みを与えてくれる南三陸リアスの海。
強さと豊かさをたたえ、時には畏れも抱きながら、
いにしえより、自然を敬い、海と共に生き、
海と向き合い続けてきたまちの歴史があります。

ALIVE南三陸 ——— 自然と共に生きる「海業と防災の町」

まちを守り続ける

私たちのかけがえない財産である、
この美しい海をいつまでも守り継ぐために。
限りある海の豊かさを享受し続けるために。
知恵と勇気と誇りを持って、
私たちが今、すべきことがあります。



モアイの像とコンドルの碑



八幡川



防潮陸門閉鎖



防災訓練



寄木漁港の朝焼け



魚市場への水揚げ



カキ剥ぎ



海岸清掃「リアス・クリーン作戦」

海が教えてくれる共生の心

南三陸町は、その昔1930年、河北新報社主催によって選定された「東北十景（海岸の部）」人気投票で第一位になったほどの美しい海岸が今なお残っている地域です。豊かな恵みをもたらすリアスの海とその自然のリズムの中で営まれる暮らしは、百年後も変わることがあつてはならない、町の財産です。南三陸町では、大切な地域資源である海の環境を守りつつ、その資源を有効に利活用するために、地域の産学官民が連携したさまざまな取り組みを進めています。

水産資源が減少し枯渇状態にある昨今、「作り育てる漁業」から「資源管理型漁業」へと変わりながら、水産資源の保護及び漁場の環境保全に努めています。県内では初の試みとして、99年に志津川湾水産資源増殖管理推進協議会を設立し、町・漁協・遊漁船業者などが一体となった活動を続けています。町の海浜高度利用センターを活用してのふ化・中間育成した稚魚放流事業や小学生の体験放流など、地域全体で取り組むその活動は、06年全国豊かな海づくり大会にて表彰されるなど全国的にも高い評価を得ています。全国でも有数の

環境学習拠点として大きな役割を果たしている「南三陸町自然環境活用センター」では、「エコカレッジ事業」として、高校生公開臨海講座や生産者と消費者が交流する市民講座の開催、自然教育プログラムなどを実施。また環境教育インターンシップ制度を創設し、指導者の養成にも取り組んでいます。こうした取り組みを積み重ねる中で、南三陸町では、基幹産業である漁業を中核として、観光業や加工業などの異業種連携により、町の海洋資源と環境を活用して、学び生産し交流する“総合的産業「海業」の確立をめざしています。

災害に強いまちづくり40余年

海と向き合い、海と共に生きる南三陸町の海岸沿いには十数^{オホ}に及ぶ防潮堤が築かれています。1960年のチリ地震津波により、死者41人、流失家屋326戸、被害者1万6百人、被害総額52億円超という県下最大の甚大な被害を被った南三陸町は、被災後から現在にいたるまで災害に強いまちづくりを進めています。全国でも早い84年度に「地域防災計画」を策定。95年度には総合防災システムとして、防災行政無線の戸別受信機を全世帯に配置し

自分たちの町は自分たちの手で

近い将来、高い確率で宮城県沖地震の発生が予想されている現在は、行政的な危機管理的措置や設備システムの更なる整備を進める一方、日本海溝特措法に対応した内容で新たに策定（06年12月）した「南三陸町地域防災計画」のもと、行政組織上の危機管理体制や防災システムの確

立に努めています。06年度には防潮水門の耐震化と遠隔操作化を完了。町内80カ所の避難場所・避難所、6カ所の臨時ヘリポートの整備をはじめ、地の利がない観光客への誘導サインとなるセーフティライン、夜間点滅サインなどの設置・整備を徹底させています。町では毎年、チリ地震津波があった5月24日に町内全域で地震・津波防災訓練を実施。その規模は町民の約3分の1に近い5千人余が参加するほどで、町民の自主防災意識の高さを表しています。05年からは、負傷者の重傷度に応じて処置するトリアージ訓練や観光客誘導訓練、

夜間避難訓練、ローカル防災無線の放送など、行政区ごとに工夫を凝らした自主防災訓練が行われています。町の中心部・松原公園内にあるモアイ像とコンドルの碑は、チリ地震津波30周年を記念し、同じ被災国であるチリ共和国との友好親善を深めるために輸入設置したものです。モアイのモは「未来」、アイは「生存」を意味し、「未来に生きる」勇気のシンボルであるモアイ像は、災害を知らない世代へと語り継ぐための南三陸町の防災の象徴です。

*日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震に係る地震防災対策の推進に関する特別措置法（平成16年法律第27号）

ALIVE南三陸

The people of Minamisanriku Town live with the fertile sea off the southern Sanriku rias coast. In order to protect our beautiful, precious sea and pass it to the coming generations, and to keep enjoying the fruits of the sea, we aim to establish a comprehensive “marinery” by making good use of our marine resources and environment in business links with the tourist industry and processing industries, centering on fishing. Further we are constructing a strong town against natural disasters.

湧きたつ鼓動を力に

人がいて、町があつて、夢を見つめて、
南三陸の自然のドラマの中で刻まれる営み。
世代から世代へ、脈々と流れる心。
地域から地域へ、伝えられる想い。
そして過去から未来へ、継がれる歴史。

誇りと喜びを未来へ

ALIVE南三陸 ————— 人と地域と未来をつなぐ「交流の町」

出会いがある。ふれあいが生まれる。
さまざまな交流が、私たちに、
喜びと活気に満ちた新しい力をもたらしてくれます。
その力が、町の強さや豊かさ、おおらかさとなって、
リアスの人とまちの未来を鮮やかに映し出しています。



神割崎キャンプ場付近



訪問看護



ひころの里での民話語り



山形県庄内町の産業体験交流

交流が生む、新しい力

南三陸町では、さまざまな形の交流が

の主体的活動が地域を巻き込み、地域ぐるみの活動として発展した事例として大きな注目を集めています。町の商工会部会で組織した「ボランティア友の会」では、地域の一人暮らしの高齢者宅の訪問や住宅などの無償修繕活動を30年以上にわたり実施。また町の催事などにおいて運営スタッフとして高齢者や障害者の介助支援にあたる団体が多数存在することも町の自慢です。

生まれ、その力が町の力となり活性化につながっています。サマーキャンプと称して、アメリカ合衆国カリフォルニア州アーヴァイン市と交互にホームステイ体験する国際交流協会主催の中高生海外派遣事業は、町の未来を担う次世代層が、コミュニケーションする喜びや郷土への理解を深める良い機会となっています。また、近隣の市町との連携を図り、首都圏の中学生を招き、各市町の農家に宿泊し農業体験をしてもらうファームステイや居住交流など、地方と都市部、地域と地域を結ぶ価値ある取り組みも増えています。

友好町の盟約を締結している山形県庄内町とは、小学生の相互交流や産業体験交流のほか、海岸地域と山間地域で地理的特性も違う両町において、大規模災害が発生し被災した場合に緊急対策や復旧支援を行う「災害時における相互応援協定」を締結しています。世代を超え、また地域を超えて生まれ育まれた交流により、共に手を携え、学び合い、一事を成し遂げることができる。それは町民としての大きな喜びであり誇りです。

ALIVE南三陸

In Minamisanriku Town, we are active in handing down local performing arts. When elders in the community guide and coach the youth and children, they exchange beyond generations, know compassion, and nurture spirits to love the homeland and to value culture and traditions that are the assets of the town. There are a lot of volunteers within the town under the idea of "Protect our town by ourselves while cooperating with and helping each other".

子へ孫へ継がれる「結」の心

南三陸町では、今も「講」や「結」など昔からの生活互助形態が一部地域で残っています。今でも普段の付き合いに節々の料理を交換したり、海岸部では大漁時に魚を近所に配ったり、また最近までは、高齢者の介護なども家族親戚や近所の人たちで担うことが当たり前になっていたほど、人と人との結びつきや地域内のコミュニティ的つながりが強く息づいている地域です。生活習慣の中で互いに助け合う精神は、素朴で心温かな人情として、今なお

南三陸町に生き続け、町の伝統文化を支える大きな力にもなっています。地方の特色ある文化が消えつつある現在、南三陸町では郷土芸能の伝承活動がさまざまな形で活発に行われています。行山流八鹿踊の発祥の地でありながら、約300年以上もの間、途絶えていた「行山流水戸辺鹿子躍」は、郷土の踊りを自分たちの手で復活させようと地域住民たちが保存会を結成し、今や小学生も参加し、近隣町村に伝授するまでの広がりを見せています。「講」が今も残っている入谷地区では、4つの打囃子講が輪番で八幡

神社に奉納する民俗芸能「入谷打囃子」が約240年にわたって伝承されています。また寄木浜に昔から伝わる大漁祈願の旧正月行事「寄木ささよ」は、地区の小中学生が全員参加して各家庭の庭先で大漁歌を唄い込む、200余年の歴史ある行事です。地域の年長者が青年や子どもたちへ教え伝えていく中で、世代を超えた交流が生まれ、人を思いやる心を知り、郷土を愛し、郷土の財産である文化や伝統を大切に思う心が育まれています。

慈しみの心と、この地に住む喜び

「互いに協力し助け合いながら、自分たちの町は、自分たちの手で」という町民の強い思いのもと、さまざまな個人や団体がボランティア活動を行っていることも町の特徴のひとつです。歌津地区の精神障害者のグループホーム「希望ヶ丘」設立にあたっては、NPO法人ハーマニーうたがが主体となり、家族会や保健所、町が一丸となって、一般の賛同者を募り、資金を集めて念願のホームを完成させました。147名もの町民が名を連ねるNPO団体の存在、またそ



泊崎灯台と泊浜唐船番所跡



寄木ささよ



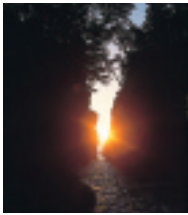
水戸辺鹿子躍



アメリカサマーキャンプ

360° TOWN SCOPE

神割崎 Kamiwarizaki



神様が岩を割ったとの伝説が残る景勝地。全国の「白砂青松百選」に選ばれ、例年2月中旬と10月下旬には岩の間から日の出が望める。

田束山 Tatsuganesan



古くから山岳信仰の霊山として人々の信仰を集めてきた霊峰。太平洋を一望でき、春には5万本のツツジが咲き誇る。

平成の森 Heisei-no-mori



1年を通して楽しめる多目的スポーツリゾート施設。芝生グラウンドやナイター設備がある野球場、スポーツ合宿として利用できる長期滞在施設もある。

魚竜館 Gyoryukan



世界最古の魚竜化石・ウタツザウルス（国指定天然記念物）やジオラマ、世界の魚竜化石が常時展示されているミュージアム。

さんさん館 Sansankan



廃校になった木造の小学校校舎を改装して作られたグリーンツーリズムと体験学習（100種の体験メニュー）の拠点で、宿泊もできる。

ひころの里 Hikoro-no-sato



仙台藩養蚕発祥の地・入谷地区にある、江戸時代の在郷藩士住宅「松笠屋敷」と養蚕の歴史を紹介する「シルク館」。



生命の循環を実感できる町 私たちは生態系という 宇宙に生きている

南三陸町自然環境活用センター 所長・理学博士 **横浜康継さん**



伊豆の下田臨海実験センターで大学の任を終え、南三陸町に移り住んで8年が経ちました。自然の美しさ、食の豊富さおもしろいと言いつつ及ばず、都会にはない純朴さと都会より熱い気概にあふれた人びとに、私は自然に引き寄せられました。そして山と川と海がコンパクトにまとまった、循環する生態系を学ぶための標本のような、生きた環境学習の町に魅せられたのです。この海辺の研究所では、子どもも大人も好奇心旺盛に学び、遊ぶことができます。色彩と造形の美に満ちた海藻の魅力を知り、地球環境問題の本質を理解するきっかけとなる海藻おしぼ講座や、高倍率30万倍というミクロの世界が観られる、走査型電子顕微鏡による植物プランクトンの観察、そしてエコカレッジ事業などが活動の中心です。光合成にはじまるエネルギーの循環により、人も生き物の一つであり、自然の一部として生きていることがよくわかります。豊かな環境と人の交流がある南三陸のフィールドで、この現場らしい研究と教育、そして地球の生物として「生きているとは」を探求し続けていきたいと考えています。

地域の人が元気に張りきる お互いを笑顔にする体験交流はすばらしい

校舎の宿 さんさん館 グリーンツーリズムコーディネーター **山内富美子さん**



廃校になった林檎小学校の卒業生が中心になって、思いの校舎を地域活性化のために生かしたいと、2000年に校舎の宿を、開校「しました。農山村と漁村がバランスよくまとまった南三陸町らしいグリーンツーリズムで、体験者に驚きと喜びを提供でき、私たちの気持も若返ります。この地域に生きてきた人たちに、その知恵と技を生かせる場ができ、励まされ、ふれあいを楽しみ、地域に活気が生まれました。この自慢は、なにより農家のお母さんたちの身内のような自然なホスピタリティです。その温かさに感動される方が多く、また新しい交流もはじまります。これからも地域のいろいろな方々と協力し合い、ネットワークを大切にして、もっともっと楽しい南三陸にしていきたいですね。

リアス VOICE

一人ひとりがまちづくりの主人公
私たちの愛する町・南三陸を語る

2町合併後、1年が経過しましたが、南三陸町という新しい町名を今後とも広く浸透をはかっていくことが大切です。美しい海に面した町に南三陸という名前が付く、これ以上ない素晴らしいイメージを観光に結びつけたいですね。アクセス面では大きな効果のある三陸自動車道の整備促進に期待しています。2008年には仙台・宮城・大宮・千葉・横浜・東京が連携する「三陸圏」が形成されています。南三陸町の魅力は、海と山での体験を通じて、自然の豊かさ、人の温かさを実感できることですね。新しい海の魅力を発見できるダイビングやシュノーケリング体験も加わり、海を資源とした観光の町としてこれからもアピールしていきます。

南三陸町観光協会 会長 **阿部隆二郎さん**



知るほどに深まる、町の魅力 広域観光で新しい南三陸をつなぎたい

1999年から2000年は、中国産や韓国産のワカメが大量に宮城県内に山回り、三陸産ワカメが暴落した年でした。危機感を抱いていた生産者5人はたまたま宮城県の浜の起業家講座で出会い、そのまま独自ブランドづくりに意気投合して、このワカメの生産に乗り出すことになったのです。外海で育てた「シャキシャキ若芽」は、まだ成長過程にある2メートル以内の若いワカメを刈り取った、身が厚めのワカメです。収穫量は3分の1になりますが天然物に近く、甘みのあるシャキシャキした食感が好評で、県内外にファンが少しずつ増えています。催事の試食で必ずリピーターができますが、認知はこれからですね。おかげさまで優良県産品推奨品に認定され、お客様からの高い評価にも励まされて、毎日がチャレンジの連続です。

みやぎ伊達な若芽生産者の会 漁業士 **最知隆さん**



きれいな海をいつまでも自慢したい そして人と環境を大切にしたい

宮城県志津川高等学校平成18年度生徒会長 **高橋遼平さん**



志津川に生まれ育ったので海が好きで、小さい頃から海で遊んできました。きれいな海が当たり前で、環境のことはあまり考えていなかったのですが、汚れてからでは遅いので一人ひとりの意識を今、変えないといけないと思います。クリーンアップ作戦で町の清掃活動を行っていますが、その中では地域の方たちとの自然なつながりが生まれ、得るものは大きいですね。学校でも、先輩と後輩の接し方だけでなく、人と人とのつながりを学ぶことができ、まとまりも強くなっている。それが中高一貫教育の良さのひとつだと思います。

ワカメ本来の味を届けたい だから日々挑戦です

地域の安全と安心のために 防災訓練で深まる人と人のつながり

気仙沼・本吉地域広域行政事務組合 南三陸消防署長 **錦部照夫さん**

南三陸町は、47年前のチリ地震津波という災害の歴史があり、防災への関心が高い町です。毎年5月24日は津波防災訓練の日として、早朝から5000人以上の住民の方々が参加する全町あげてのイベントになりました。当日は中学生がボランティア活動としてリヤカーで救急患者を搬送するなど、住民のアイデアによる訓練が行われ、自主防災の組織づくりがすすんでいます。近年は津波体験者も少なくなり、防災意識の風化が懸念されていますが、パソコンによる手づくり紙芝居で出前防災講座を開催するなど、署員一丸となって防災意識の継承に努めています。今後は防潮水門をモニターで監視して遠隔操作できるシステムや、津波避難誘導標識の整備などに積極的に取り組み、防災に強いまちづくりを一層推進していきます。



2000年余り、地域に伝わってきた 旧正月行事をずっと大切にしていきたい

寄木ささよ保存会

「...お船玉あらよう 取らせる魚授け たまいやー...へんややへんやや」 歌津寄木浜に伝わる「ささよ」は、小学1年から中学3年までの男子が参加し、大漁旗を先頭に各戸を廻り、大漁と航海安全を願う伝統行事です。今年は僕たち10名で46戸を4時間かけて廻り、「ささよ唄」を唄い込みます。家々で頂いたご祝儀はみんなで分配します。船頭が船子に漁獲高を分けることをまねた、こうした習慣

を身に付けながら大人への仲間入りをするのだそうです。今年81歳の保存会会長さんに昔の話なども聞きながら、教えていただいています。経験年数の少ない小学生は喉が痛くなったり、雪道で滑ったりすることもあります。先輩に負けないように大きな声で歌えるよう、がんばって練習をしています。
(平成19年船頭役 島山登太さん)



子育てにがんばるお母さんを 地域力で支援していきたい

南三陸町子育て支援センター主任保育士 **三浦房江さん**

豊かな自然に恵まれた南三陸町でも少子化、核家族化が進み、子どもを健やかに育てる社会環境や子育て意識が変化しています。近所付き合いや人間関係が希薄になる中、子育てに戸惑うお母さんたちへの支援のため、1998年に子育て支援センターが開設されました。地区の保育所や公民館を拠点に、子育ての相談から運動会の開催、サークル活動の支援、栄養士や保健師と協力しての子育てトークなど、活動は年間を通じて多彩です。ボランティアの地域子ども見守り隊や児童相談員、幼保交流会と連携しながら、町ぐるみで子育て、子育て、そんな環境づくり・関係づくりに取り組んでいます。親子がいっしょに元気になる、この町で子育てしたい、そう思える南三陸町にしていきたいですね。



菊花ブランド“黄金郷”が 明日をひらく力になるはず

黄金菊栽培農家 **及川誠司さん**

今から26年前に、南三陸町で産業として菊づくりをはじめたのが父でした。水田や葉タバコ栽培より農作業の負担が少なく、高齢化対策にもなる転作事業として注目を集めました。私は小さい頃から、いずれ自分は後継者になるだろうなと意識はしていましたが、父が急逝し、20歳から電照菊の栽培に取り組むことになりました。菊は仏花として一年を通して市場性のある花です。ハウスでは天気と気温を見ながら、冷夏や暖冬に気を配り、天幕の開閉で日照時間をコントロールします。そして出荷の2ヵ月前から夜間に電球の明かりを当てて開花調整を行い、春彼岸とお盆、秋彼岸をはじめとして、年間の需要期の出荷を可能にしました。ドイツ・シュツタガルトでの国際園芸博覧会(1993年)では、町の輪菊ブランド“黄金郷”がグランプリを受賞。現在、JANA南三陸の47戸で栽培しており、年間2億円の生産高に達しています。ブランド名だけに頼らず、二層の品質アップのために先進地への研修や技術向上に、組合員一丸となって取り組んでいます。



おいしさと美しさを知ってほしい 観光漁業という 新しい海の魅力

志津川町漁業協同組合 管理課長兼指導課長 **阿部富士夫さん**

南三陸町といえば、ブランドになったギンザケをはじめ、タコ、カキ、ホタテ、ワカメなどおいしい、自慢の海があります。1976年に県内初の養殖に成功したギンザケは全国の市場に定着し、大手スーパーでも依然高い人気を誇ります。そしてこの海が与えてくれたもう一つの恵みは、透명한美しさです。ダンゴウオなど志津川湾だけで見られる海中生物などをダイビング体験で楽しんでいたことが、漁協と町と民間が協力し合いダイビング事業を開始しました。きれいに澄んだ海中を泳ぎ、おいしい魚介を味わってもらえば、漁業振興にもつながることでしょう。近年は、アワビの餌となる海藻群生が姿を消す、磯焼け現象の原因調査など、海の大切な資源や環境を守るための活動にも積極的に取り組んでいます。



Chrysanthemums named “Ogonkyo” (El Dorado) cultivated in the town, attract nationwide attention as one of the Minamisanriku brand names. In 1993, the high-quality chrysanthemums received the grand prix at the Horticulture Exhibition in Stuttgart, Germany. Fisheries and tourism here collaborated and appear as a new business that conveys the taste of seafood and beauty of the sea to people outside the town in a new field of “tourist fishery”.

The view as it changes from season to season in Minamisanriku Town. Spring features traditional white goby fishing in the Isatomae River. In summer, the blue sea shines and many sea bathers come. “*Hikoro-no-sato*” where you can feel the atmosphere of 250 years ago, the late Edo period, and Mt. Tabashine are colored with fall foliage in autumn. Snow seldom falls in winter because of a temperate climate facing the Pacific Ocean.

春

1 国道45号沿いの町の桜の名所・東山公園
2 石をV字に組み上げ仕掛けをする昔ながらの伝統漁法で行われる、春の風物詩・伊里前川のシロウオ漁
3 春の訪れを告げる波伝谷の獅子舞は独特の魔除けの行事
4 5万本のツツジが全山を赤く染める田束山の遊歩道



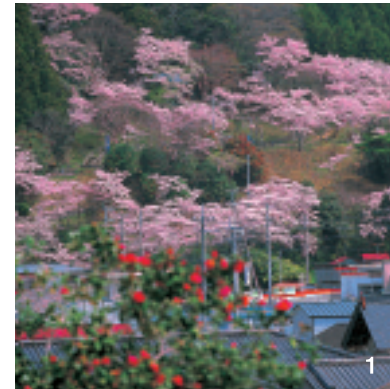
4



3



2



1



5



4



3



2



1

夏

1 300メートルの砂浜と静かな渚が続く、環境省選定「日本の水浴場88選」のサンオーレそではま
2 サンオーレそではまで行われる志津川湾ビーチバレー大会
3 歌津恋来い浜まつりで披露される大 lantern 船
4 志津川湾夏まつりでの花火とレーザー光線によるファンタジーショー
5 海を一望できる高台にあり11月末まで楽しめる、JAC認定の3つ星マークの神割崎オートキャンプ場

南三陸 彩時記

リアスの風を受けて刻まれる、
自然のリズムと町民の営み



5



4



3



2



1

秋

1 江戸後期に建てられた在郷の藩士住宅として文化価値の高い松笠屋敷（ひここの里）
2 荒沢神社内の太郎坊の杉は、樹齢800余年の県指定天然記念物
3 スポーツはもちろん、林間広場を中心にアウトドアを楽しむ施設が充実した平成の森
4 海に浮かぶ釣り堀は大物の引きも楽しめる人気スポットで、車椅子での利用も可
5 春はツツジ、秋は紅葉で彩られる田束山

冬

1 毎年行われる新春恒例の出初式
2 伊里前湾沿いに建つ魚竜館からは遠くに金華山が望める
3 南三陸町魚市場に正月用の農水産物が並び、一年最後の歳の市・おすばでまつり
4 南三陸は太平洋に面した温暖な気候により雪が積もることも少ないが、珍しく、雪に覆われた入谷の里山



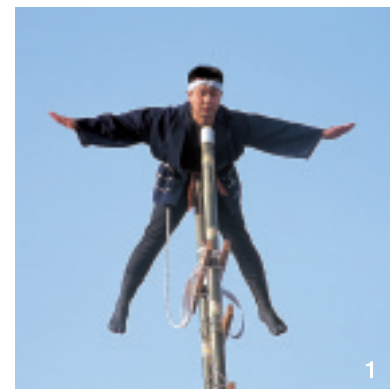
4



3



2



1



2年かけて養殖漁場で育てられた後、水揚げされます。2002年からは、県内の海産物としては初めて、トレーサビリティシステムを導入。通常は真水が使用される加工処理においても、カキ本来の風味を損なわないようにと海水を使用するなど、生産者の責任と誇りのもと、滋味深いカキが育てられています。

広島県に次いで全国2位のマガキ生産量を誇る宮城県。南三陸町の生産量は9797ト(平成17年度)で、石巻市に次ぐ県内第2の養殖地です。複雑に入りくむリアス式海岸は、養殖に適した波穏やかな湾をつくり、湾に流れ込む河川からは、カキの好物である植物性プランクトンを育てる栄養塩が運ばれます。山・川・海と町民の営みが調和し、町全体がひとつの生態系として循環している南三陸町はまさに理想的な環境といえます。6月には、カキの稚貝を付着させた原盤(ホタテの貝殻)を長さ約10メートルのロープに挟み込む種付け・種はさみ作業が行われ、

【カキ】

ランドが「伊達のぎん」です。生餌も一切使わない上、卵から稚魚・成魚まで生産場所と生産者を明確にした徹底した品質管理のトレーサビリティシステムを導入しているため、安心・安全で、魚による味のばらつきがない品質の良さが評判を集めています。宮城県は全国屈指のギンザケの産地ですが、その主産地の一つが南三陸町です。



1976年、世界に先駆けて志津川湾で始められたギンザケ養殖。以来、町の一大産業として発展。全盛期には35億円の水揚げがあったほどですが、近年ではサケマスの輸入増加と全国的な供給過剰からギンザケ生産量は落ち込み、価格も低迷しています。こうした状況を打ち破るべく、県漁連の指導のもとに生産されている新ブ

【銀鮭】

の、志津川湾のタコは岩場や小石の海底を棲家としており吸盤が汚れていないため、味も格別と言われています。南三陸町にだけ伝わる、イシヤリ(形が石槍に似ていることから)という、サンマやハモなどの餌をつけた仕掛けを海に投げ入れ、船上で糸を巧みに操りながらマダコを誘う独特の伝統漁法があるほどです。今ではイシヤリにこだわる漁師は少なくなっていますが、その伝統は今もしっかり伝えられています。また、ミスダコも水揚げ量が多く、町の特産品の一つです。



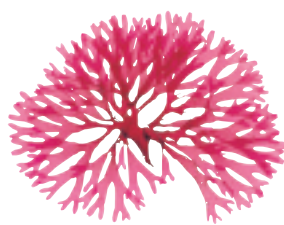
【マダコ】

志津川湾で捕れるマダコは、「西の明石、東の志津川」と呼ばれるほど全国に知られる人気ブランドで、旬の10月から3月にかけては東京・築地市場でも高値で取引されています。太平洋の荒波で育った志津川タコは身が引き締まり、アワビを食べて育っている上、一般的には砂地や泥地に生息するもの



南三陸 ブランド A to Z

南三陸の人と自然が織りなす
海の幸・山の幸リアスいいモノ語り



【海藻おしぼ】

南三陸の海で採れた海藻を使って作る「海藻おしぼ」。食材としては身近な海藻をじっくりと観察する楽しさと、押し葉として手作りする喜びがある、南三陸町自然環境活用センターの



人気のプログラム「海藻おしぼ」作りには、子どもから大人まで、全国から多くの方が参加しています。南三陸の海で育つ植物の生態や地球環境にとつての海藻の役割なども学べることから、学習素材としても注目を集めています。

Minamisanriku Town boasts a prominent catch (fish and shellfish) in Miyagi Prefecture. Especially, the octopus in Shizugawa Bay are popular and known as “Akashi octopus in the west or Shizugawa octopus in the east”. A traditional, unique tool “Ishari” is used to catch octopus in Minamisanriku. Other Minamisanriku produces to be proud of are silver salmon, oysters, sea squirts, abalone, sea urchins, wakame and mekabu (seaweed), and processed marine products.

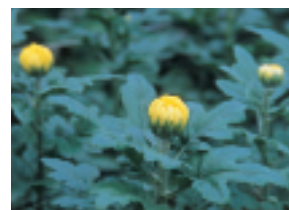
宮城県は全国でも有数の霜降り牛肉の産地で、「仙台牛」ブランドとして高い評価を得ています。1994年度には南三陸町産の仙台牛が、全国肉用牛枝肉共助会で全国2位にあたる最優秀賞を受賞するなど、まさに仙台牛ブランドの評価と実績を牽引しています。近隣の小牛田市場から買い付けた子牛を20カ月かけて大切に丹精込めて飼育される中で、ブランド特選牛がつけられます。65年頃には町内に肥育牛を扱う農家が110軒あったものの、現在では20軒ほどに減少していますが、南三陸町は、良質な水と良質米の稲ワラが豊富であるという環境の良さを生かして、仙台牛の主産地として高い評価を得ています。



【仙台牛(南三陸町産)】



葉タバコや稲作からの転作事業として、農協(当時)の若手組合員を中心に、1981年から菊栽培を開始。当初は露地栽培を主体としていましたが、天候に左右されず安定生産と品質向上を図るため、ハウス栽培へ転換。その結果、県内でも有数の菊の産地となり、92年には生産額が一億円を超えました。また93年には輪菊のブランド「黄金郷」が、ドイツ・シュツットガルトで開催された国際園芸博覧会でグランプリを受賞。現在、JANA南三陸の47軒で年間約400万本、2億円の生産高を上げるほどに成長しています。品質の良さに加え、一年中手に入る電照菊として、仙台市場や東京・太田市場へ出荷され、全国的にも人気を博しています。また芽かきなどは高齢者にもやさしい作業として、町のシルバー対策に活用されることが期待されます。



【輪菊】

数少ない日本原産の山菜であるフキ。歌津、入谷の両地区では夏は涼しく、冬は雪が少ない気候を活かし、20年ほど前から水フキ栽培が行われています。ハウス栽培のためアクが少なく、口当たりも軟らかいのが特徴で、4月上旬から5月いっぱい収穫が行われ、県内各地に出荷されます。10ヘクタールの栽培面積で生産量は6.6ト(平成17年度)、県内一の産地になっています。生産農家が協力し合い、農薬を使わずに手間をかけて育てられています。また2004年からは、少雪多照の南三陸の気候にあった作物「南三陸春告げやさい」のひとつとして、フキノトウのブランド化を推進しています。



【水フキ・フキノトウ】

【ホヤ】

ホヤ王国・宮城県の生産量は1万1406ト（平成17年産）で、全国生産量の7割を占めています。その主産地が南三陸町です。町内産の養殖ホヤは、太平洋の荒波を受けて身が締まり、歯ごたえがある上、水質の良い海で育つため殻も身も大きく、色が鮮やかなのが特徴。3ト前後の下げ縄1本に15〜17個のカキ殻を挟み、その殻1個に20〜30のホヤの種を付着させる種付け作業から3〜4年。ホヤは時間をかけて育てられた後に収穫されます。近年は国内市場だけではなく、韓国にも出荷されています。



【アワビ】

高級食材として人気の高いアワビ。全国3位の漁獲量を上っている宮城県産の約4分の1は、南三陸町産です。南三陸の海で獲れるアワビは、最も美味といわれるエゾアワビで生食に向いているため、重要な磯資源として禁漁期間や漁獲時の大きさの制限があります。また人工的に増殖をしながら漁をする「資源管理型の育てる漁業」が行われています。（財）宮城県水産公社で生産された人工稚貝を3センチ以上に中間育成した後には放流され、コンブやワカメなどの海藻類を食べて成長。4年ほど経って9センチ以上になってから漁獲しています。とりわけ複雑な岩礁地帯で育つ歌津崎周辺のアワビは身が大きく、昭和天皇にも献上された名産品として知られています。



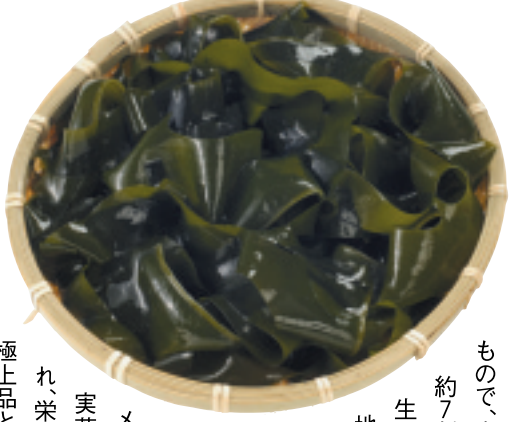
【ウニ】

南三陸町産ウニ（キタムラサキウニ）は、志津川湾や伊里前湾の良質なワカメやコンブなどの海藻類を餌としているため、その味わいは一級品です。ウニもアワビ同様に、成長の助けを行って漁業資源を増やす「栽培漁業」によって、稚ウニを人工的に生産し、放流しています。ウニ漁は、水深10〜20メートル以浅の岩礁地帯で、船から箱メガネで海底をのぞき、二本爪のウニカギを用いて行われます。採ったウニは陸に揚げると、加工せずに生のまま出荷されます。



【ワカメ・メカブ】

市場に出回るワカメのほとんどは養殖もので、岩手県と宮城県の両県で全国の約7割を生産しています。全国2位の生産を上げている宮城県一の生産地は南三陸町で、年間生産量は7338ト（平成17年産）を誇ります。海岸が深く切り立ち、潮の流れが良く、良質なワカメを養殖する条件に恵まれていることから、高い評価を得ています。またワカメの茎の両縁にできるひだ状の成実葉・メカブの生産地としても知られ、栄養価が高く、粘りの良さが特徴の極上品として県内外に出荷しています。



【水産加工品】

新鮮な魚介類だけでなく、水産加工品の数々も町の誇るべきブランドです。昔ながらの手作り技法で焼き上げた「笹かまぼこ」や「創作蒲鉾」、南三陸で水揚げされた天然ムラサキウニを一粒一粒丹念に剥き、直火焼きでじっくり焼き上げた「焼きウニ」、地元で獲れた素材の旨さを生かした「ほやの塩辛」「さけみそ漬」など、その種類もさまざま。新商品の開発も盛んに行われています。



【南三陸米】

2004年秋に本格販売された地元ブランド米「南三陸米ひとめぼれ」。気仙沼・本吉地方で生産された「ひとめぼれ」の一等米のみを原料とし、「おいしい米を地元の人に」と、地産地消を目指してJANA南三陸管内70店で販売されています。山地が海岸まで迫り、平地が少ないという地理的ハンディと経営規模が小さい分、きめの細かい栽培管理と生産者の愛情のもと、徹底した品質管理が行われ、町内生産量360ト（平成17年産）を誇るまでになっています。減農薬米の生産を目指すことから、05年産米から、水稲の種もみを湯で消毒する「温湯殺菌」を本格的に実施し、南三陸米のブランド価値は更に高まっています。



【またたび茶】

入谷地区などの山間部で見ることができ、つる性の植物・またたび。町内で収穫されたまたたびのみを原料とし、緑茶の約10倍ものビタミンCやカルシウムなどを含む健康茶として親しまれています。町内各施設をはじめ県内で販売。年末には、南三陸町のふるさとバックとして、ワカメなどの海産物との詰合せで県外にも販売しています。



【いちじくワイン】

不老長寿の果実といわれるほど、薬効と栄養価が高いいちじく。1993年からJANA南三陸が販売を開始したいちじくワインは、町内の歌津上沢地区で収穫されたいちじくを原料とした地場産品です。魚竜館直売所など町内を中心に販売され、珍しいワインとして観光者の注目を集めています。



【椎茸】

昼夜の寒暖の差が大きい南三陸町の気候が、肉厚で身の締まった良質な椎茸を育て上げます。小森・大船地区が主産地で、生椎茸と乾椎茸を年間約5.5ト（平成17年産）生産しています。入谷にある「校舎の宿さんさん館」では、原木に椎茸を植菌する体験学習も行われ、人気を集めています。



Minamisanriku's Ringiku (a kind of chrysanthemum) is popular in Japan because they are good quality and are shipped all year round. Minamisanriku Town is widely known as a main producing area of "Sendai beef" (Sendai is the seat of the Miyagi's prefectural government), which is one of Japan's famous marbled beefs. Other specialties are juicy Japanese butterbur (Mizu-fuki), local brand rice "Minamisanriku-mai Hitomebore", silvervine (matatabi) tea, and fig wine.

まちの歴史遺産

先人がいた、時代を創った足跡を辿る
未来に伝えたい、私たちの町の誇り

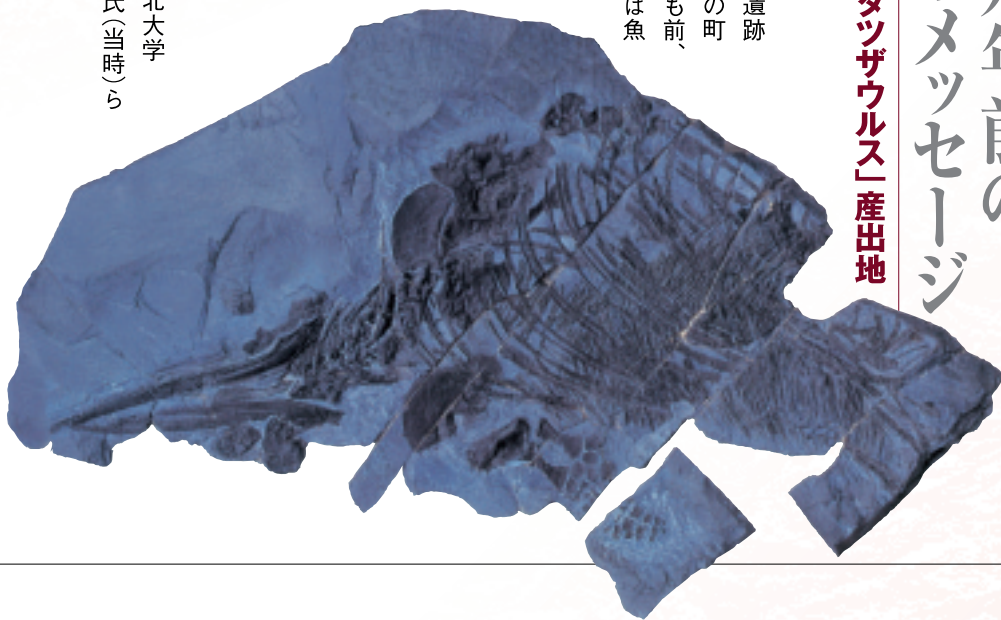
2億4千万年前の 太古からのメッセーじ

世界最古の魚竜化石「ウタツザウルス」産出地

南三陸町では、数多くの化石・遺跡が見られ、それらは太古からのこの町の様子を物語ります。2億年以上も前、この町一帯は海でした。その海には魚竜が群れをなして泳ぎ、アンモナイトが生息、海底には多くの貝類が棲息していました。魚類から2億年以上の時を経て人類へと進化し、人々が営みを始めたのです。

世界を驚かせた 「ウタツ魚竜」の発見

1970年（昭和45）9月、東北大学地質学古生物学教室の村田正文氏（当時）ら



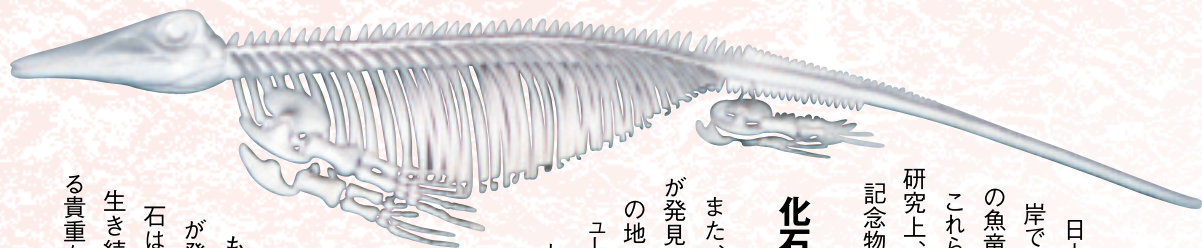
日本地質学会の研究グループが、歌津地区館崎の西側一帯の海岸で、十数体の魚竜化石を発見。2億4千2百万年前の世界最古の魚竜化石として、世界に知れ渡りました。

これらは「ウタツ魚竜（学名ウタツザウルス）」と命名され、古生物学研究上、非常に貴重なものとして、1975年（昭和50）には国の天然記念物に指定されました。

化石産出現地に建つミュージアム

また、管の浜でも「クダノハマ魚竜」が発見されたことから、化石産地のこの地に全国でも珍しい現地保存ミュージアム「魚竜館」が建てられました。館内には化石やジオラマのほか、ドイツで発見された「イクチオザウルス」の化石や「ベザノザウルス」のレプリカなどが展示され、世界の研究者の注目を集め続けています。

また、志津川地区の細浦でも1億5千万年前の「細浦魚竜」が発見されています。これらの化石は、太古から今日まで海と共に生き続ける南三陸町の歴史を伝える貴重な財産です。



縄文人など先人の生活ぶりを今に

南三陸町では約1万年前より、人々は狩猟を行い集団で魚の網漁をするなど、集落をなして生活していました。歌津地区の町向、峰畑、管の浜などから、縄文時代の土器や石器など先人の遺物が数多く出土しています。志津川地区折立にある大平館跡からは7千年も前の竪穴住居跡などが見つかっています。



義経伝説と 平泉の藤原黄金文化

入谷産金と田束山

850年以上も前の平安時代、南三陸町は本吉荘と呼ばれ、藤原摂関家の荘園でした。その頃から砂金が採れて、荘園の年貢として納められていました。この地を治めた奥州藤原氏の黄金文化を支えたのも、南三陸の金でした。町には、奥州藤原氏と深く関わった義経伝説も残っています。

藤原栄華を支えた、みやぎ南三陸の黄金海道

南三陸の北上山系で採取された金は、本吉金として脚光を集め、その主産地は田束山周辺地域や小泉川の砂金でした。奥州藤原氏の初代清衡が建立した平泉の中尊寺金色堂は、この地の金で飾られたと言われています。

なかでも、入谷の童子山付近から掘られた「入谷産金」は、大きな注目を集めていました。そのため、平泉からは三代秀衡の四男・本吉四郎高衡が派遣され、朝日館に居を構えて経営に力を注いだと伝えられます。一時は「入谷千軒」と呼ばれる集落が生まれる程のゴールドラッシュに湧いたものの、江戸・元禄時代には金が底をついてしまい、産金時代は終焉を迎えました。



修験の山として 藤原氏が尊信した 田束山

三代秀衡は、古くから山岳信仰の霊山として尊ばれてきた田束山を深く信奉し、多くの寺坊を復興させました。その数は、

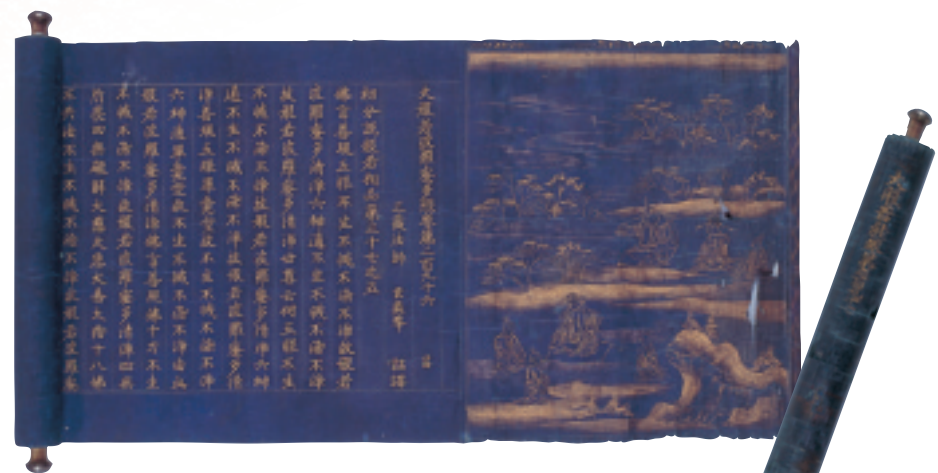
大小寺院48、坊は380を越したと言われています。

山頂にある11基の経塚は、約800年前の平安末期のものと推定され、今なお全山いたるところに杜寺跡が点在しています。

また町には、田束山寂光寺の什物として伝わったとされる、平泉中尊寺経蔵にある国宝「紺紙金経」の一部、「紺紙金泥大般若経」（荒沢神社蔵）が残されています。

不滅の英雄・ 義経にまつわる哀伝

町内には源義経にまつわる伝説も多く残されています。例えば、保呂羽山麓の江島には、義経の妻である「江島」が住んでいたとされています。また、義経の側近・鈴木三郎重家を追って志津川にたどり着いたその妻・小森御前が、夫の訃報を聞いて自ら命を絶ったことから、これを哀れみ、村人が建てて祀った祠が残されています。



The whole area of Minamisanriku Town was under the sea more than 200,000,000 years ago, and the world's oldest ichthyosaur fossil "Utatsusaurus" from 242,000,000 years ago was found in 1970. The "Gyoryu-kan" (ichthyosaur museum) was constructed to commemorate it. There is also a history as a gold producing area. The town is known to support the gorgeous, golden culture of the Fujiwara family who prospered 850 years ago in Hiraizumi.

日本の製糸業発展に 尽力した先人たち

伊達藩養蚕発祥の地・入谷地区

今から300年前の元禄年間、金の産地であった入谷地区は掘りつくされて生業を失い、新たな産業を興すことが皆の願いでした。一人の若者が立ち上がり、養蚕の先進地・福島県伊達郡川俣に赴き、苦心の末、桑の栽培から製糸の技術までを習得。帰郷して入谷地区に広めました。こうして、世界的評価を集めるシルクを世に送り出す扉が開かれたのでした。

まちの発展の礎を築いた養蚕業



ふるさとの入谷地区に養蚕技術を広めたその人、山内甚之丞は家々から繭を集荷。生糸を紡いで売りさばきました。時は元禄の繁栄期。伊達藩でも絹の需要が増えたものの生糸の生産は少なかったため、村は活気づき、養蚕・生糸生産の中心地となりました。ヤマセが霧雨を運ぶ風土が桑の生育にかなう、また清水川の清流で豊富な水が入谷産生糸の品質を不動のものとなりました。仙台平の袴に使われたほか、その銘柄「金華山」は京都西陣と直接取引するほど高い評価を受けました。この生糸こそが伊達藩の繁栄を支え、まちの発展の原動力となったのです。



万博グランプリに輝いた「金華山」

時を経て、まちの各家庭で行われていた養蚕業は、近代化の波とともに製糸業を確立させました。その発展に尽力したのが、志津川地区十日町の高橋長十郎です。

製糸業に手を染めていた長十郎は、それまで水力だった製糸機械の動力源にアメリカ製ボイラーを採用すること



を計画。1888年(明治21)に、約30名の製糸製造業者とともに、日本初の機械繰り製糸工場「旭製糸会社」を創立しました。民間では国内最初に洋式ボイラーを導入。最新式の機械を備えた工場は、450人もの従業員を抱える大規模なものでした。

この工場で作られる生糸銘柄「金華山」は、世界へ輸出されました。その品質の高さはパリ万博(1900年)、イタリヤ・トリノ万博(1911年)と二度のグランプリを受賞するなど、世界を凌駕するに至ったのです。

最大波高5.5メートル、語り継がれる証言

チリ地震津波が教えてくれたこと

1960年(昭和35)5月24日、突如として太平洋沿岸を襲ったチリ地震津波は、またたく間に南三陸町市街地を壊滅。死者41人、被害総額52億円超の大災害をもたらしました。近い将来、高い確率で宮城県沖地震の発生が予想されている今日、南三陸町ではこの経験を教訓にし、「防災に強いまちづくり」を町民一丸となって進めています。

街が消えた！あの光景は決して忘れない

24日午前3時20分頃、志津川湾の荒島辺りは鏡のような海面ながら、「舵を取っても船が蛇行」してしまふほどに。午前4時過ぎ、袖浜では異常な引き潮で「ゴロゴロ岩だらけの海底が見えたのです。」「異常な引き潮津波の用心だ。大変だ！逃げろ！」との電話での知らせに警察署が海の様子を確認。4時18分、町内に津波警報のサイレンが鳴り響きました。

4時37分、「ゴッ」という音とともに黒壁のような海水が襲って「きて、次々に高い波が市街地に押し寄せ、家屋がバリバリと倒れ流されていききました。」「逃げると父に言われても、身体が震えて動かない。手を引っ張



られ、高台へようやく避難したのです。4時42分、最高潮位は5.5メートルに達し、10分ほど経ち引水すると、「濁流が渦巻き、壊れた家や木材が流されていったのです。その後も40分位の周期で、3メートルから1.2メートルの津波が翌朝まで押し寄せることに。」「街が消えた」というほど、あちこちに大量の家屋の破片や木材が散乱し、残骸の山が築かれたのでした。



経験を伝え、団結して防災の取り組みへ

2週間余りの避難所生活では、子どもから高齢者までが家々の後始末に追われる中、山間部の人たちが峠を越えてボランティアに駆けつけるなど、町内外の心強い支援を得て、町民はようやく平穏な生活を取り戻していきました。南三陸町では、4年を費やして町を復興。志津川地区の市街地の95%が区画整理され、道路も拡幅されて、町は新しく生まれ変わりました。

津波での経験を次世代に伝え、悲惨な被害を繰り返さないよう、チリ地震津波記念日の5月24日に、町内全域を対象とした防災訓練が40年以上にわたり行われています。津波30周年を記念して建立された、松原公園のモアイ像は、町の防災のシンボルになっています。また1996年(平成8)には、防災無線戸別受信機を志津川地区全戸に設置するなど、防災に強いまちづくりが進められる中、町民一人ひとりの防災意識も高まっています。



町中心部の高台から望む志津川湾

Town Vision

2

集いと賑わいの あるまちづくり

地域の特性を活かした持続的な地域経済の活性化を推進するために、本町では「集いと賑わいのあるまちづくり」を掲げて、地域資源の活用と交流による産業の育成、そして安定した就業基盤づくりを支援していきます。

異業種間のネットワークづくりを支援すると

Town Vision

1

安全で安心な まちづくり

本町では過去に地震・津波により幾度となく甚大な被害を被ってきた歴史を教訓として、災害に強い「安全で安心なまちづくり」を進めていきます。

2006年12月に「南三陸町地域防災計画」を策定し、また、2006年2月に宮城県全域が日本海溝・千島海溝型地震に係る地震防災対策の推進に関する特別措置法の規定に基づく推進地域に指定されたことから、施設面の整備や防災拠点機能の充実に進めつつ、自主防災意識の啓発や災害時の情報伝達手段の確保、救急救命体制の更なる充実など、地域内での連携・協力体制の確立に力を注いでいることに加え、広域的な防災体制整備の観点から、「岩手・宮城県際市町災害時相互応援協定」を本町を含む宮城県北・岩手県南11市町で締結するなど、あらゆる面から町民の安全安心の確保を進めていきます。



数多い物産直売行事のひとつ、町の農水産物が一堂に並ぶ「産業フェア」



緑地などの周辺環境や防災に配慮した新興住宅が並ぶ東浜団地



志津川漁港と商工団地を結ぶ臨港道路「はまゆり大橋」開通式（2006年7月）

『自然・ひと・なりわいが紡ぐ 安らぎと賑わいのあるまち』 をめざして

南三陸町は、平成19年度（2007年度）から28年度（2016年度）までの10か年にわたる総合計画を策定し、「自然との共生」「自治意識の高揚」「ブランド化の推進」を基本理念に、『自然・ひと・なりわいが紡ぐ 安らぎと賑わいのあるまち・南三陸町』の実現をめざし、町民と行政の連携による協働のまちづくりを進めていきます。地域の特性を活かし、人とまちと夢を未来へつなぐ活力に満ちたまちづくりを進めていきます。

Minamisanriku Town has a "Minamisanriku Town Comprehensive Plan" for 10 years from 2007. The citizens and administration are building a town to 'Live in harmony with nature', 'Lift self-governing consciousness', and 'Raise the brand image of Minamisanriku Town' with the slogan "Town with wellbeing and prosperity weaved by nature, people and living".

Our policies: 1. A safe and secure town, strong against disaster, 2. A lively town with industrial promotion, 3. Comprehensive, well-developed healthcare and welfare, 4. A pleasant living environment in harmony with nature, 5. Education and culture nurturing intelligence and rich minds, 6. Vigorous collaboration with citizens, and 7. Strategic administration, making great strides in the Minamisanriku district, while each community shows individuality, building a town of vitality.



子どもから高齢者までが集い、地区で開催されている町民体育大会



母親たち独自のサークル活動もサポートする「子育て支援センター」



町全体の漁船隻数は県内の約15%を占める

Town Vision

4

環境と調和した まちづくり

他に誇りうる海・山川などの豊かな自然環境の一体的な保全と資源循環型社会の推進に努めながら、社会基盤の整備や町民と行政の協働による美しい景観づくりなどの「環境と調和したまちづくり」を進めています。

町民の生活範囲が行政エリアを越えて広域化してきている今日、重要になるのが公共交通網・道路交通網の充実です。町では、民間事業者による町内路線バスの廃止に伴い、2006年10月から町民バスと民間事業者による乗合タクシーの定時・定路線運行を開始し、児童生徒や高齢者などのいわゆる交通弱者の利便性を確保しています。そして、町民の長年の願いである三陸縦貫自動車道の早期整備促進に対して、防災面や産業振興の面などから、その活用に大きな期待が寄せられています。

らう特別授業を実施しています。また、2006年には福祉の里に地域包括支援センターを設置し、介護予防事業の充実、高齢者の総合相談や権利擁護事業などを行う機能を充実させました。今後、日々の生活における介護予防対策としての各種事業の実施や地域福祉を推進するためのボランティアの育成・活動の支援などに積極的に取り組んでいきます。

Town Vision

3

みんなで支えあう 健康のまちづくり

町民自らが心身の健康づくりに努め、一人ひとりが心豊かで自分らしい生活ができるよう、町では「みんなを支えあう健康のまちづくり」を掲げ、各種検診や健康づくり、疾病予防のための健康教育・健康相談、体力づくり事業などを推進していきます。

2016年には本町の65歳以上の方の割合が30%を超えることが確実視され、また、少子化も今後一層進行していくことが予測されていることから、保健・医療・福祉の連携を強化するとともに、高齢者福祉や障害者福祉の課題は、地域社会とその家族、そして行政の連携によって解決していくという地域福祉推進体制の整備を進めていきます。

その一環として、町の職員が講師となり、1989年から志津川高校では選択科目に福祉教育の授業を導入し、福祉の現場を理解しても



町民バスと乗合タクシーは新しい町民の“足”に



80歳を超えてなお生涯現役で働く高齢者が多いことが町の自慢



公立志津川病院内に併設されている「りあす訪問看護ステーション」



健やかにたくましく、町の未来を担う宝を地域ぐるみで守り支えていきたい



商店街の空き店舗を活用して開設したコミュニティサロン「五日町ゆめプラザ」



養殖パイが浮かぶ志津川湾内を周遊する観光客に人気の観光クルージング船



“町民の声を町政へ”、町長が地域へ出向いて開催している出前トーク



地元漁師の協力のもと、毎年、町内数地区で行われる小学生の地引網体験



屋内外の施設が充実し、スポーツ合宿の利用も多いスポーツ交流村・ベイスайдアリーナ

7 Town Vision

戦略的な 地域経営の展開

本町では、中長期的な視点での計画的な行政運営や合理的・効率的な財政運営の確立に努めています。また、2003年からは県内の市町村に先駆けて「日曜開庁」を導入するなど、町民ニーズに応えた行政サービスの向上を図っています。さらに、2006年9月からは、神割崎キャンプ場やひこころの里、水産振興センターなどの公共施設の管理運営に民間事業者のノウハウを活用した質の高いサービスを提供するため、指定管理者制度を導入しました。2007年3月からは防災・福祉・教育などの分野の高度情報化を図るため、役場と消防署や各学校をはじめとした公共施設を光ファイバ網で結んだ「南三陸町地域イントラネット」の運用を開始し、小中学校における学習支援システムとして、また、テレビ電話による福祉相談や町議会中継サービス、防災情報提供サービスの利活用が始まっています。

6 Town Vision

参加と協働が 活発なまちづくり

“自分たちの住むまち（地域）は自分たちで創る”という意欲的な町民の意識に比べ、本町ではさまざまな主体（団体）を育成するとともに、その活動を支援し、町民が魅力や誇りを感じられるま

5 Town Vision

知性と豊かな心を 育むまちづくり

本町では、町民一人ひとりが生涯の各時期にわたって、いつでも自主的・自発的に学習に取り組むよう「知性と豊かな心を育むまちづくり」を推進していきます。
2003年4月からは、県内で初めての連携型中高一環教育を導入し、志津川高校と町内の4つの中学校が一体となって、教員や生徒間の交流による6年間の計画的・継続的な教育を実施しており、英語・数学の交流授業や部活動の合同練習、中高生全員による地域清掃活動など、生徒一人ひとりの個性の伸長と異年齢集団の中における社会性の育成に努めています。
各地区の公民館などで開催されているふるさと学習会や交流事業、婦人や高齢者を対象とした講座などは、新しい文化を創り出す主体的な活動として地域に浸透し、多くの町民が参加しています。また、史跡や文化財を保護する取り組みとともに、地域に伝わる郷土芸能の伝承活動も行われています。



町議会



町民の自主的活動の場として公民館が盛んに利用されている



各種スポーツ大会が開催されるスポーツリゾート施設「平成の森」



伝統芸能のほか、よさこい踊りや創作太鼓など新しい文化芸能団体も誕生し活動している



約5万本のツツジが咲き誇る5月の春に行われる「田東山マウンテンバイク大会」

18,000人余の町民と共に、
自信と誇りに満ちた南三陸町を目指して

新しく誕生した南三陸町は、
悠久の年月を経て形成された
リアス式海岸や先人達が残し伝
えてきた伝統文化など豊かな自
然や歴史という、貴重な財産に満
ち溢れた町です。

この貴重な財産を今に活かし、
未来に引継ぐため、自分たちの
暮らしや生業を再認識し、地域性、
独自性を意識した”小さくとも
キラリと光る“まちづくりを進め
ています。

新しいステージ”南三陸町“は、
町を愛する町民一人ひとりが
主役です。自信と誇りに満ち溢
れた町民と共に未来に引き継げ
る魅力ある物語を創っていきたい
と考えています。

南三陸町長 佐藤 仁



Together, over 18,000 citizens are aiming at building a confident and proud Minamisanriku Town

Newly born Minamisanriku Town is abundant with valuable assets of rich nature and history such as the Rias Coast formed over an eternity, and traditions and cultures that have been left by and passed down from our ancestors.

In order to make the best use of the valuable assets in the present time and to pass them on to the future, we are rediscovering our living and livelihood, and proceeding to build a “small but shiny” town that is aware of locality and originality.

In the new stage, “Minamisanriku Town”, each citizen who loves this town plays a leading part. I hope to write an attractive story that will succeed to the next generations, together with townspeople who are confident and proud.

南 三 陸 町

町 章



南三陸町の「南」と「三」モチーフに
未来の空へと羽ばたく鳥、美しい里山
の自然、未来を創造する新しい波を表現。
オレンジの丸は、新町の未来を照らす
太陽と、町民の新町にかける情熱を表現しています。

位 置

東経 141°27'01”
北緯 38°40'29”

役場所在地

〒986-0792 宮城県本吉郡南三陸町志津川字塩入77

面 積

163.74平方キロメートル

気象状況

年平均気温11.1℃、年間降水量1249.8ミリメートル
〔1996～2005年の10年間の平均〕

町 花

【ツツジ】 かざり気なく素朴に咲き誇るツツジは、い
たるところに自生し、みんなに親しまれています。当町
では、特に田束山のツツジが華やかで、毎年5月に開
催される「田束山つつじまつり」には多くの行楽客が
訪れます。

町 木

【タブノキ】 暖かい地方の海沿いに多い常緑の高
木で、当町の海岸部のいたるところに自生しています。
特に湾内に浮かぶ椿島は群生の北限地として植物
学上極めて価値が高く、椿島暖地性植物群落として
国の天然記念物に指定されています。

町 鳥

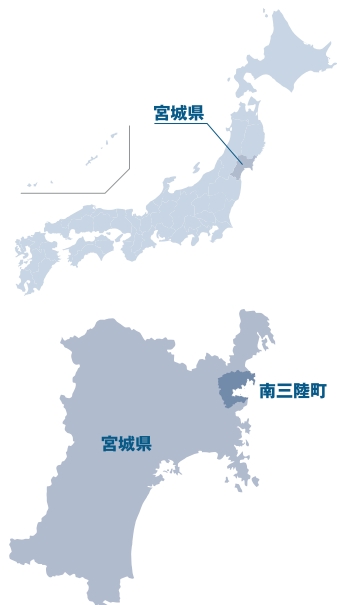
【イヌワシ】 国の天然記念物に指定されている絶
滅危惧種ですが、当町の豊かな自然環境の中で生
息している希少な鳥です。

海の生物

【マダコ】 志津川湾の住人で、当町自慢の物産品。
さまざまなイベント・交流などでの展開が期待できる、
産業の活性化を象徴するユニークなシンボルです。

イメージカラー

【スカイブルー】 発展、希望、爽やかさ、やすらぎ、
そして南三陸の空と海を象徴しています。





<http://www.town.minamisanriku.miyagi.jp/>

リアスの人とまちと未来が満ちる

南三陸町 町勢要覧 2007

平成19年3月発行

発行／宮城県南三陸町

〒986-0792宮城県本吉郡南三陸町志津川字塩入77

TEL : 0226-46-2600 FAX : 0226-46-5348

<http://www.town.minamisanriku.miyagi.jp/>

E-mail: office@town.minamisanriku.miyagi.jp

企画／南三陸町企画課

制作／凸版印刷株式会社 東北事業部



◎本紙は環境にやさしい古紙配合率100%再生紙と大豆油インキを使用しています。